

Rayさんの支援から卒業して
3週間が経ちました。

今でも時々、「こんなとき息子にどんな
言葉をかけたら良いのだろう」と思うこと
はありますが、「Rayさんならこう仰るかな」
と自分で考えたり、夫と「その対応は先回り
ではないか」「今は見守ろう」と話し合い
ながら対応できるようになりました。登校
し続けられていることに加え、家庭内としても
安定したなと思えるところまでこられて、
道のりを思い返すと感慨深いです。

息子は申しのGW明けから登校でき
なくなりました。Rayさんからご指導を受け
て後で見る今考えれば、

- 母の「先回り」「過干渉」
- 父の父性未発動

により 本人が成長できていないところに、
相性が合わない先生などの苦手な環境
が重なったことからパンクして「本人にとって
面倒な場所から逃げる」という行動に
至ったのだと思います。「2学期から登校
する」と言っていたのが、結局9月は通え
ず、この時期は本人にとっても先の見えな
い辛い時期でした。親から見て息子は元気
にな、ていように見えたことから このままど
はいいないと夫婦で話し合、た結果、
「何かしら機関に通い、社会生活は
学んでいく」という方向に決めました。
フリースクールなどいくつか提案してところ、
本人は「友達もいるから元の学校に行く」
という選択でした。学校に戻ると決めてい
ものの、息子は無理やり選択させられた

と思っており、いきなり登校できるわけ
もなく、「学校って どうやって行くものだったに
らうかな」と考えてしまうような 五里霧中の状態
でした。また、たにさんの不登校関係情報を
漁っていた私は、この頃ようやく「今までの
子育ては 私が自分の容量以上に頑張る
だけのことで、もしかして先回りという鬼手
だったのではないか」と薄々甚か付き 自信を
喪失していました。ほかの子供もいる中、親が
迷っている状況は家庭の危機感を感じて
こともあり、家庭外に頼ろうと考え、復学
支援機関であるRayさんに ご連絡
しました。状況をお伝えして Rayさんの
ご意見を伺ってすぐに、私は鬼子がいはい
頃から「正しいのに頑張るママ」を演じて
自分に酔っていたのかもしれない、と気付
き、納得できました。

このとき、家庭外である Ray さんに夫と頼ったことを、いま本当に良い選択だったと、じから感じています。

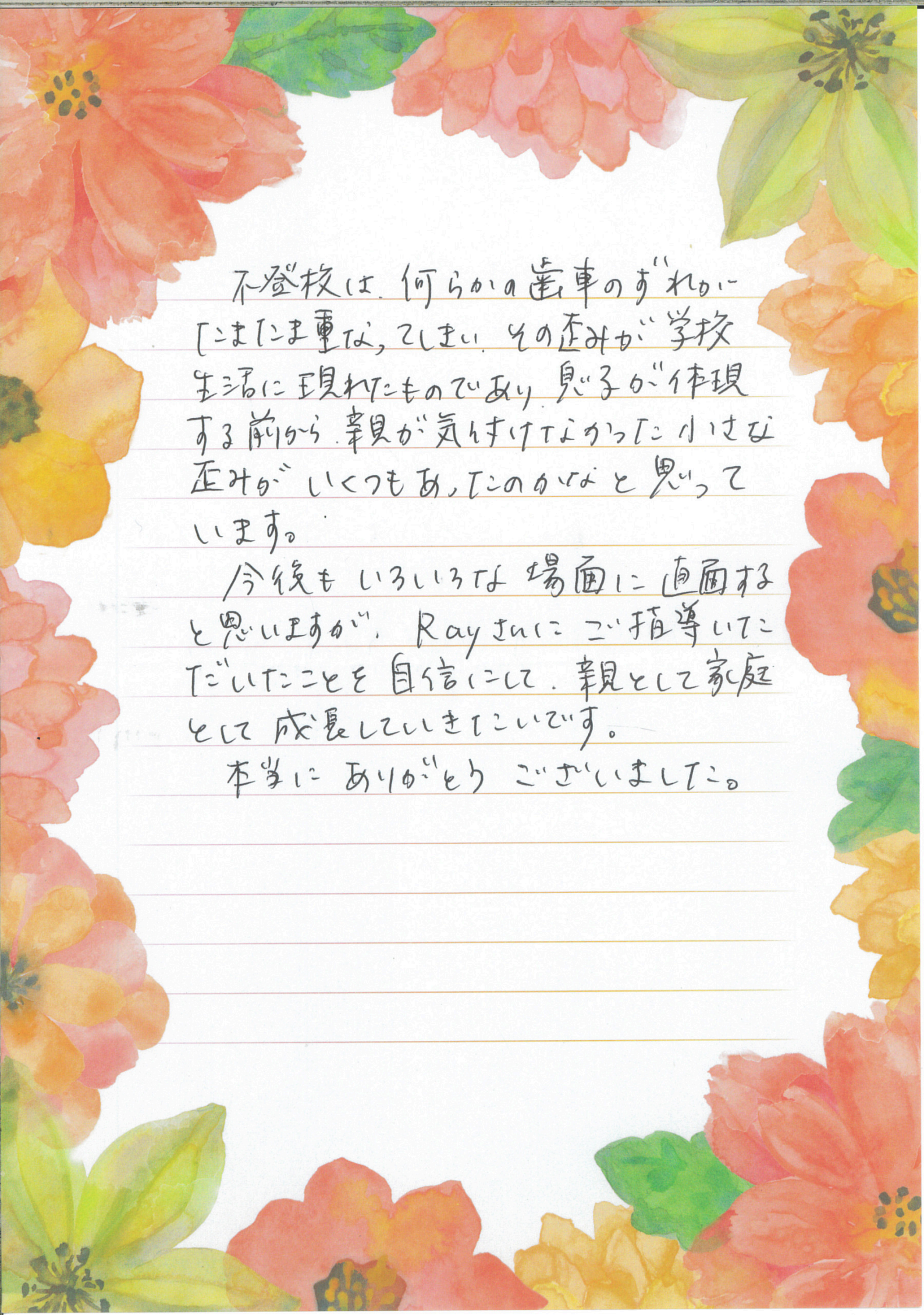
通勤途中や昼休みに 日常の会話を Ray さんに送り続けることや、家庭を変えていくことは正直大変なことではありましたが、もともと何かを頑張ることで自己肯定してきたところがある私にとっては、信じてものができて夫と同じ方向を向けたと感じ、落ちついて過ごすことができるようになっていました。

息子は今でも学校が大好きなわけはありませんが、段階を経て登校する意義を受け入れて、本人には理不尽に感じるルールなどに徐々に折り合いをつけることが、できるようになり、今は登校だけでなく本人の希望が塾にも通っています。

Rayさんによる支援では、単に登校
あるだけでなく、今後も続いていく
家庭を夫と考えるながら舵取りをして
いくことを教えてくださり、育児も成長させて
いただきました。

- 夫と子育てや家庭のことを話し合えるように
なったこと
- 子供たちが感じている思いを肯定と
捉えることが出来るようになったこと
- 子供たちとしっかり話せる状況を作
りつくれるようになったこと
- 平自身を「そのまゝ認められるように
なったこと

これらの点が平たち家庭にとっては
大きく変わったことであり、これからの
糧にできるものになっています。



不登校は、何らかの「歯車」のずれか-
[にま]に重なる、てしまい、その歪みが「学校
生活」に「現れた」ものであり、息子が「体現
する」前から、親が「気づけ」ていなかった「小さな
歪み」が、いくつもあつたのか、なと思つて
います。

今後、いろいろな「場面」に「直面」する
と思ひますが、Rayさんに「ご指導」いて
「だいた」なことを「自信」にして、親として「家庭
として」成長していき「たい」です。

本当に「ありがとう」ございました。